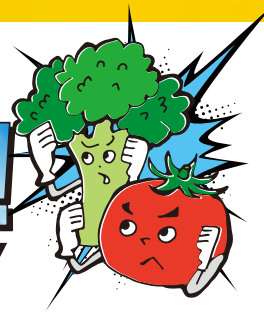


猛暑に打ちかつ!

良品を作る品種選定と栽培技術



ホウレンソウ

栽培は温度&
灌水管理が重要!

品種選定

ホウレンソウは中央アジア原産のため、本来は冷涼な気候を好み高温には弱い作物です。近年は9〜10月でもなかなか気温が下がらず、秋の栽培も難しくなってきました。今回は、このような状況下でもおすすめできる品種をご紹介します。

夏の安定栽培におすすめ!
「タフスカイ」

「タフスカイ」は高温下でも生育が停滞せずに伸長し、肥大性がよい特性をもちます。『耐暑性』『萎凋病耐病性』『早生性』を兼ね備えているため、夏場の安定栽培に向いています。株間を7cm程度に広く取り、株をしっかりと作ることがポイントです。注意点は極晩抽品種ではないので、長日条件で抽苔しやすい5〜7月中旬の播種は避けるようにしてください。夏場のホウレンソウ栽培でお困りの方はぜひ!と自信をもっておすすめします。



タキイ長沼研究農場
ひらおともりの
平尾 友識

収量性にすぐれる
「晩抽サマーヒット」

生育スピードより収量を求める方には「晩抽サマーヒット」がおすすめです。「タフスカイ」と比べると耐暑性は劣りますが、5〜6月播種が可能な晩抽性を持ち、じっくり生育するため株張り



↑ 晩抽サマーヒット



↑ タフスカイ

おすすめ作型

品種名	月	3	4	5	6	7	8	9	10
タフスカイ	播種期								
	収穫期								
晩抽サマーヒット	播種期								
	収穫期								

遮光資材の使い分け

播種〜発芽

地温が25℃以上にならないように上昇抑制

使用資材：80〜90%あるいは黒色の遮光資材

発芽〜収穫

光合成に必要な光をハウス内に取り込みつつ、温度上昇を抑制

使用資材：30〜40%の遮光
※遮光率の高い資材は軟弱徒長につながるため撤去

収穫

収穫物のしなびを抑制

使用資材：80〜90%あるいは黒色の遮光資材



↑ 遮光資材におすすめな「タキイ涼感ホワイト」

栽培ポイント

温度上昇抑制を意識!

温度管理では、ハウス内の温度上昇抑制に努めます。発芽適温および生育適温ともに15〜20℃であるため、生育ステージごとに遮光資材を使い分けることが良作のポイントです。さらに、遮光資材だけでなく、ハウスサイドや

がよく収量が期待できます。ただし7〜8月の播種は避けて、以下の点に気をつけて栽培してください。
① 高温による生育停滞や葉焼けを防ぐために遮光率の高い資材を使用し、曇天から晴天に変わる天気予報の際は早めに遮光資材を設置。
② 灌水管理は「タフスカイ」より1回当たりの灌水量や最後の灌水量を増やして生育を促す。

適切な水分と地温を維持する
灌水管理

妻面をビニールからネットに切り替えて、ハウス全体の通気性をよくすることも大切です。
夏場の栽培では圃場が乾燥しやすくなります。発芽やその後の生育において、適切な水分と地温を維持するためには、日中の乾燥と地温上昇を見越し、早朝に灌水することが高発芽・収量の向上につながります。日中に行わない理由は、葉焼けや株腐れにつながる可能性があるためです。
夏場に良質なホウレンソウを作るためには、収穫前に行く、最後の灌水量とタイミングが重要です。ここでの灌水が多いと下葉の「ころけ」につながります。収穫1週間前を目安に少量の灌水を実施するとよいでしょう。